

# 利上げを緩やかに進めるFRBと、 景気の安定を優先する中国はリートにプラス

今年2月末以降、米FRB(連邦準備制度理事会)高官から利上げを示唆する発言が相次ぐと、世界のリートは軟調となりました。しかし、FRBの3月15日の会合では、3ヵ月ぶりに利上げが決定されたものの、緩やかな利上げペースが妥当との見解が確認されたことなどから、翌日にかけてリートや株式が世界的に反発しました。

FRBは今回、政策金利を0.25ポイント引き上げ、0.75~1.00%とすることを決定しました。ただし、会合参加者の2018年末までの政策金利見通しは昨年12月時点の見通しと同水準に維持され、利上げペースが年3回にとどまることが引き続き示唆されたほか、イエレン議長が会見で、利上げは緩やかに進めるとの見解を改めて示しました。今回のFRB会合を機に、年3回との米利上げ見通しの織り込みが進んだだけでなく、一部で台頭していた利上げペースの加速観測が後退したことは、今後の世界のリートにとってポジティブと考えられます。

また、3月5日に中国で、今年の経済成長率の目標を6.5%前後にすると発表されたことも注目されます。この目標は、2016年の目標(6.5~7.0%)や実績(6.7%)をやや下回るものの、世界的には高い水準であるほか、李克強首相は、「実際の運用の中でより良い結果を求める」と述べています。同国では、最高指導部が入れ替わる、5年に1度の共産党大会を秋に控えていることもあり、景気の下振れ回避に向けて安定を最優先させる方針で、経済面で結びつきが強いアジアやオーストラリアのリートおよび株式にとってプラスとみられます。

FRBの利上げ方針の背景となっている米経済の回復・拡大見通しや、中国当局が掲げる、同国経済の世界的に高い成長の継続方針は、商品市況の持ち直しなどとともに、世界景気の低成長からの脱却、ひいては、投資家のリスク資産選好を大きく後押しすると見込まれます。こうした中、特にアジアやオーストラリアのリートは、分配金利回りが相対的に高いという魅力や中国との経済面での結びつきの強さに加え、政治面でのリスクが相対的に低いことなどもあり、世界の主要資産の中でも投資家の注目を集めると期待されます。

## 世界リート・株式のパフォーマンスと米金利の推移

(2000年1月末~2017年3月末\*) \*17年3月は17日時点

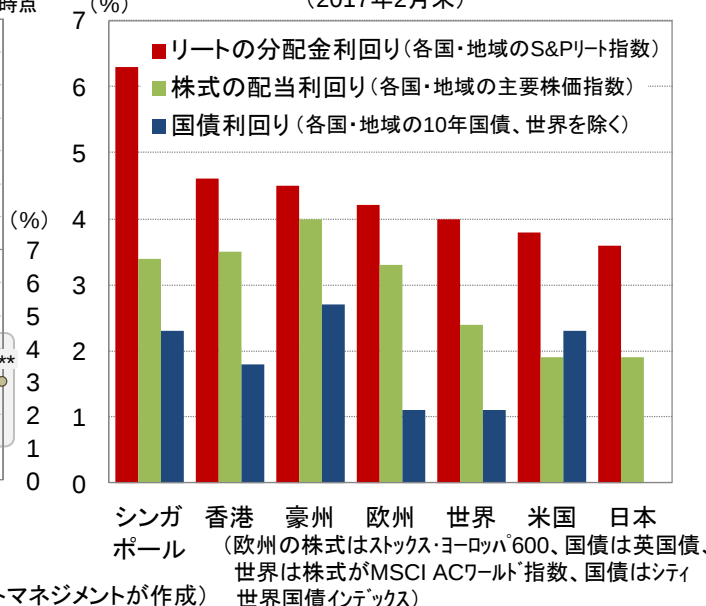


\*\* 2008年12月末以降はレンジの中間値

\*\*\* FRBの政策会合参加者の各年末の見通し(中間値)  
(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

## 主要国・地域の主な利回りの水準

(2017年2月末)



※上記は過去のものおよび予想であり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。